

登録コード	UAF64500	開講年度	2026				
授業題目	学校心理学特論				担当教員	茅野 理恵	
					副担当		
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 U Aカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 U Aカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 U Aカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 U Aカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	心理学分野の高度な知識・技能を有する。	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。	
(2)授業の概要	・学校心理学の視点から、子どもへの援助の全体像およびプロセスを理解する。 ・アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションのそれぞれについて、その概念と目的を理解する。 ・具体的な事例を基にしたディスカッションを通して、学校心理学の視点から子どもへの援助について検討する。 ・全体を通して、担当教員が公立小中高等学校および教育専門機関における教育相談の実務経験を活かして講義を行う。						
(3)授業計画	第1回～第9回：オンデマンド 第 1 回 学校心理学とは何か 第 2 回 学校心理学の構成要素 第 3 回 学校心理学の方法 第 4 回 学校心理学が対象とする領域 第 5 回 誰が援助するか：4種類のヘルパー論 第 6 回 誰を援助するのか 第 7 回 援助者の活動：心理教育的アセスメント・カウンセリング 第 8 回 援助者の活動：コンサルテーション・コーディネーション・チーム援助 第 9 回 3段階の心理教育的援助サービス 第10回～第14回:対面 第10 回 事例検討（中学生女子Aの事例） 第11 回 事例検討（小学校低学年男児Bの事例） 第12 回 事例検討（小学校低学年女児Cの事例） 第13 回 事例検討（小学校高学年男児Dの事例） 第14 回 事例検討（小学校高学年女児Eの事例） 定期試験 無						
(4)成績評価の方法	1)以下を総合して判定する。 ・授業への主体的・積極的な関与を確認する「授業実績」：50% ・毎回の授業の理解度を確認する「振り返りレポート」：50% 2)得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(5)成績評価の基準	①授業で出された課題の遂行具合 ②ディスカッションに積極的に参加することができたか ③他者の意見を取り入れながら柔軟に課題を検討することができたか ④授業後の振り返りレポートにおいて授業内容を十分に理解していたか 以上4つの観点について ①～④の4項目を満たし、且つ新たな視点を組み入れつつ検討することができていれば「卓越している」 ①～④のうちの4項目を満たしていれば「かなり上にある」 ①～④のうちの3項目を満たしていれば「やや上にある」 ①～④のうちの2項目を満たしていれば「その水準にある」						
(6)事前事後学習の内容	前週の授業内容を復習してから授業に臨むこと。この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(7)履修上の注意	・授業で紹介される事例については授業外で口外しない。守秘義務を守ること。 ・授業内容の不明な点を調べる、復習する、紹介文献を熟読するなど、自発的学習を求める。						
(8)質問,相談への対応	茅野理恵研究室（東校舎4階403） e-mail:chinori@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	日本学校心理士資格認定機構編 2020 学校心理学ガイドブック第4版 風間書房 日本学校心理士資格認定機構編 2021 学校心理学ケースレポートハンドブック 風間書房						
【参考書】	水野治久・石隈利紀編 2013 よくわかる学校心理学 ミネルヴァ書房						

【参考書】	石隈利紀 1999 学校心理学 誠信書房 日本学校心理学会編 学校心理学ハンドブック 第2版 教育出版
-------	--